

第104回全国高校野球選手権青森大会

弘前東	001	000	000		1
八学光星	000	101	00	×	2

(弘) 中田一工藤大
(八) 吉田、渡部一文元

▷本塁打 中澤 (八)

▷試合時間 2時間15分

(球審=梅田、塁審=滝田、小田、権谷)

【評】八学光星は1点を追う四回1死一、三塁の好機に、井坂の中犠飛で同点。六回には中澤の右中間ソロで勝ち越した。投げては四回から継投した渡部が2安打無失点と好投した。弘前東は打線が四回以降つながりを欠き、粘投した中田を援護できなかった。

八学光星・井坂泰三(四回に同点犠飛)「劣勢でも焦りはなかった。次につなぐ意識で打った」

弘前東・中田海空(六回に決勝弾を浴び)「低めに丁寧に集め、自分なりに最高のピッチングができた。本塁打を打たれた球も悪くはなかった。打者が上だったということ」

光星逆転、薄氷



【弘前東―八学光星】6回八学光星1死、中澤恒貴(右)が電光掲示板直撃の右中間ソロ本塁打を放ち、2―1と勝ち越す。八戸長根

中澤、起死回生の特大弾

八学光星は自慢の強力打線が5安打2点と相手投手に手こずりながらも、投手陣の踏ん張りもあって、ロースコアの接戦を制した。仲井宗基監督は「相手投手のデータがなく、苦戦を覚悟していた。結果的に相手より一点でも多ければいいんだ」と苦笑した。

昨秋の県大会終了後、弘前東とは練習試合で2試合を戦い、いずれも引き分け。3回戦では右横手投げの相手先発に打線が苦戦。仲井監督は「内外にうまく投げ分けられたことで、打撃の軸がぶれぶれだった」と厳しい表情を浮かべた。

白球

それでも、同点の六回には勝利を引き寄せる起死回生の一発が飛び出した。電光掲示板直撃の特大ソロ本塁打を放った中澤恒貴は「コンパクトな振りでボールの内側を叩いた。安打狙いだったが、思ったより飛んだ」と笑った。

準々決勝以降に向けた打撃の一番の課題は「ボール球の見極め」と中澤。四回から登板し、6回2安打無失点と好投した渡部和幹は「投手陣の頑張りで勝つのは難しい。もっと打って楽にさせてほしい」と注文をつけていた。

(上村公徳)